

事例4 食品製造工場 計量設備(大和製衡製データウェイシリーズ)

自動計量機の計量精度は企業の収益に貢献します。

導入前の課題	他メーカーの自動計量機を使用。老朽化により部品供給終了器物に該当した為、更新を決める。
導入後の内容	包装机・投入装置等の付帯設備はそのまま、自動計量機を大和製衡製データウェイに更新。仕様は更新前の器物と変わらないにもかかわらず、計量精度が向上。製品の重量バラつきが少なく歩留まりが改善。

これが当たり前だ！と思って自動計量機を使用していた。

Before

自動計量機の計量に対し、生産能力(スピード・生産量)は意識していたが、計量後の重量値は製品の重量表示以上(目切れが無い状態)で、且つ政令で定める誤差の範囲内であれば良いと認識し、計量精度はほとんど意識していなかった。



←『コレ』で解決！！

『データウェイシリーズ』
製造：大和製衡株式会社
データウェイシリーズは組合せはかり分野において革新的な技術を投入し、お客様の計量・包装ラインにおける生産性の向上に貢献します。

データウェイの採用で計量精度・歩留まり向上

After

計量包装設備の自動計量機に関して製造元より、部品供給が終了する旨の案内が届いた。包装机など他の設備は同年代に導入し部品供給は継続して可能であるのに「どうして計量機だけ？」と感じたが、このまま使用する事は故障時に数か月、計量包装設備が使用出来ない可能性が有るので、不本意ではあったが更新する事を決断。今まで使用していた器物の後継機種と大和製衡製データウェイにて検討を行った。検討の結果、大和製衡製データウェイに決める。決め手は大和製衡が示したサンプルテスト結果にて計量精度が優れていた点にある。

自動計量機の更新後、製品の重量値はサンプルテスト結果とほぼ同様、今までよりも精度の良い結果であった。

